

⑦後発医薬品に変更して調剤した処方せんに係る薬剤料の状況

図表 58 7/21～27 に後発医薬品に変更して調剤された処方せん（5,964 枚）の状況

	平均値	標準偏差	中央値
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料(A)(点)	985.9	1628.3	486.0
実際に調剤した薬剤料(B)(点)	790.9	1428.0	352.0
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料に占める、 実際に調剤した薬剤料の割合(B/A)(%)	80.2		72.4

図表 59 患者一部負担金割合別にみた、7/21～27 に後発医薬品に変更して調剤された処方せん（5,964 枚）の状況

	患者一部負担金割合					
	全体	0割	1割	2割	3割	10割
処方せん枚数(枚)	5,964	643	1,648	35	3,624	10
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料(A)(点)	985.9	959.7	1,147.6	505.9	924.2	309.9
実際に調剤した薬剤料(B)(点)	790.9	852.0	935.1	434.0	720.0	207.3
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料に占める、 実際に調剤した薬剤料の割合(B/A)(%)	80.2	88.8	81.5	85.8	77.9	66.9

(注) 患者一部負担金割合の「全体」には、患者一部負担金割合が不明だった処方せん4枚が含まれる。

## ⑧後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等

### 【後発医薬品メーカーについて】

- ・ 後発医薬品メーカーが多すぎる。どのメーカーを信頼できるのか分からない。メーカーを選ぶ基準が分からない。
- ・ 後発医薬品メーカーのMRの訪問がなく、情報が不足している。
- ・ 先発医薬品大手メーカーは、自社プラントで合成から製剤まで製造の足どりがはっきりしている。しかし後発医薬品のみメーカーは、自社で全て行っているのか不明である。
- ・ 後発医薬品メーカーの副作用モニタリング等の整備が必要だ。

／等

### 【医師との関係】

- ・ 医師の中には、「後発医薬品への変更可能な処方せんを出すか、変更はしないように」と口頭で指示してくるケースがある。
- ・ 医師側で後発医薬品への変更がされていけばスムーズに進むと思う。薬剤師が説明しても「先生の出したままで」という意見をたくさん聞く。
- ・ 後発医薬品に変更する際に薬剤師が直接医師と会話できればスムーズに事が運ぶと思う。

／等

### 【薬局の在庫負担】

- ・ 後発医薬品の在庫数増加による経済的リスクが増加している。
- ・ 分錠をしてくれる卸が少ないため、少量で備蓄することができない。患者の求めに応じた後発医薬品をすぐに供給できない。

／等

### 【薬局の負担】

- ・ 後発医薬品に変更した場合の医療機関への情報提供が負担である。
- ・ メーカーからのデータの公表（溶出試験等）が遅いため、採用薬を決めるのに、時間がかかる。また、レセコンへの反映にも時間を要するために、薬局の従業員への教育が手間取ってしまう。
- ・ 後発医薬品を選択した患者と先発医薬品を選択した患者を区別して、毎回きちんと調剤するにはかなりの神経を使う。非常に調剤過誤を起こしやすい状態である。何重にもチェック機能を入れて過誤を防ぐようにしている。

／等

### 【処方せん様式】

- ・ 後発医薬品の使用を促進するためには処方せんへの薬剤名記入は、商品名ではなく一般名記入を基本にすべきだと思う。
- ・ 処方せんの「後発医薬品への変更がすべて不可」欄をなくし、薬局サイドで自由に後発

医薬品へ変更できるようにしてほしい。

／等

### 【後発医薬品の品質】

- ・ ある特定の薬剤では効果が出ずに、先発医薬品に戻すケースが続いている。
- ・ 貼付薬などでは、ベトベト感、使用感等についても患者から指摘されたものがある。
- ・ 抗癌剤などの品目では同等性の評価項目を血中濃度や溶出性試験だけでなく、臨床評価での効果確認、副作用発現頻度に関する報告も含めて欲しい。
- ・ 学会等で後発医薬品の安定性、同等性（薬効）のネガティブなデータがたくさんある現況で薬剤師が後発医薬品に進んで変更しようとは思わない。

／等

### 【患者の希望】

- ・ 患者の後発医薬品に対する不安感というものが多く残っていると日々の業務で感じる。特に慢性疾患で何十年も同じ薬を服用している患者に多いような気がする。
- ・ 金額が変わらないのであれば、先発医薬品を希望する1割負担や負担なしの患者がいる。
- ・ 後発医薬品を知っている人は後発医薬品を希望するが、知らない人は、説明しても聞く耳もたずといった感じで希望しない。高齢者ほど後発医薬品の使用頻度は低く、興味を持ってくれない。
- ・ 平成20年4月以降はそれ以前と比較すると明らかに「後発医薬品」「ジェネリック」という言葉は浸透し、後発医薬品の使用量も増えている。

／等

### (3) 診療所・病院・医師調査の結果概要

#### 【調査対象等】

##### ○診療所調査

調査対象：全国の一般診療所の中から無作為に抽出した一般診療所

回答数：724 施設

回答者：開設者・管理者

##### ○病院調査

調査対象：全国の病院の中から無作為に抽出した病院

回答数：362 施設

回答者：開設者・管理者

##### ○医師調査

調査対象：上記「病院調査」の対象施設で外来診療を担当する医師

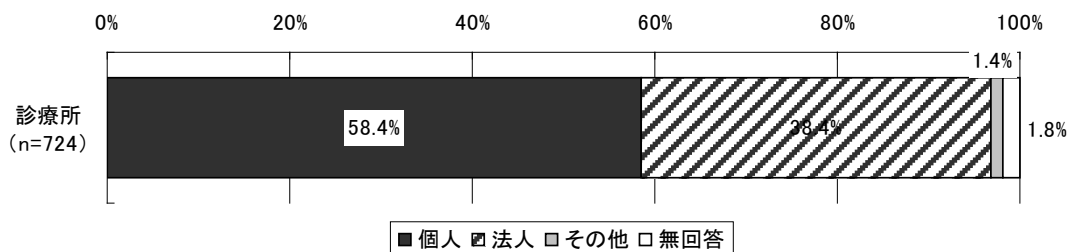
1 施設につき、診療科の異なる医師 2 名

回答数：465 人

#### ①診療所の施設属性

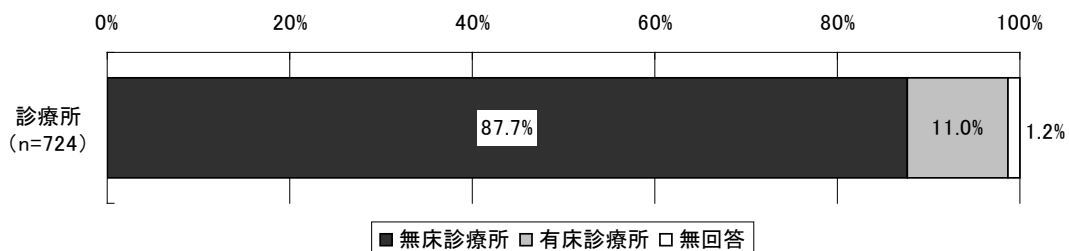
##### 1) 診療所の開設者

図表 60 診療所の開設者



##### 2) 診療所の種別

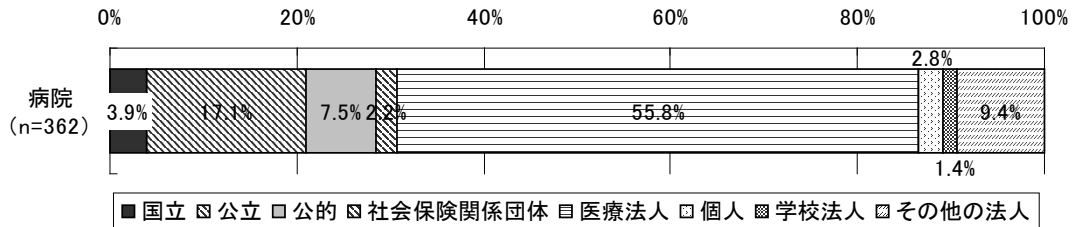
図表 61 診療所の種別



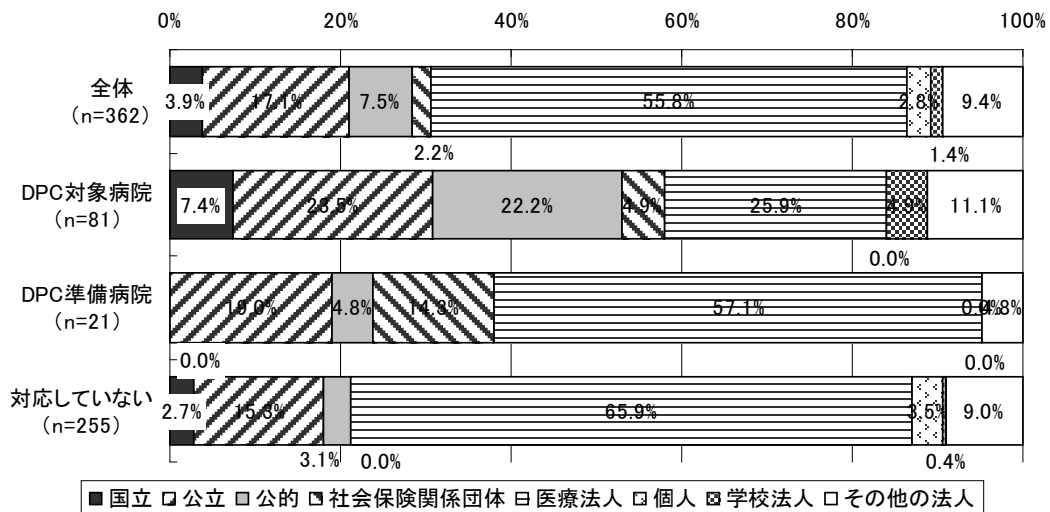
②病院の施設属性

1) 病院の開設者

図表 62 病院の開設者



図表 63 病院の開設者 (DPC 対応別)



※全体には「開設者」が無回答だった5施設が含まれる。

2) 病院の病床規模

図表 64 病院の病床規模

